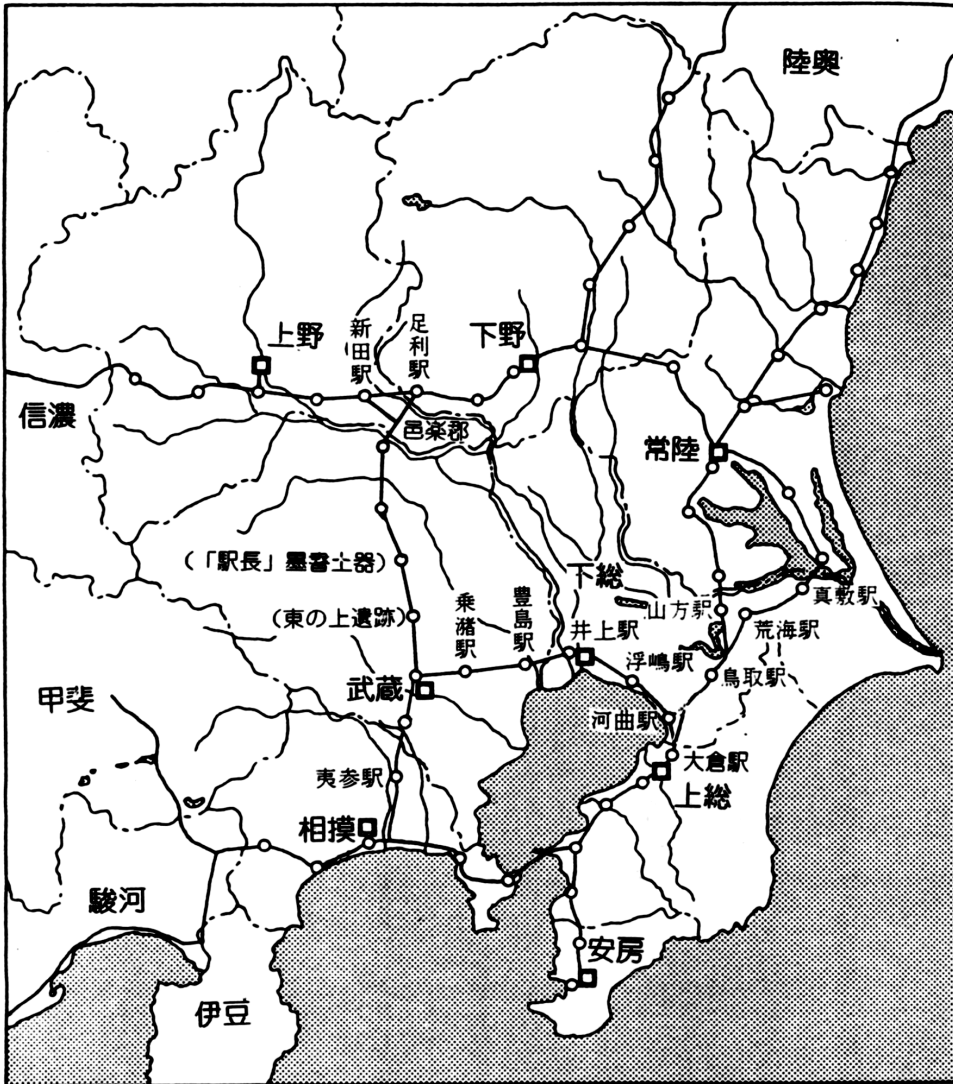


のと考えられています。

### 東山道武蔵路、武蔵国府、武蔵国分寺の建設



第2図 宝亀2年(771)以前の東国の駅路(中村太一『日本古代国家と計画道路』(吉川弘文館)所載図を修正・付記)

大和周辺にも何らかの生活が営まれたものと思われる。図は多摩のあゆみ188号から引用。

茫漠たる武蔵野の中に側溝付、幅12尺の道路が造られました。古代権力の象徴のように池の中も狭山丘陵もほぼ真っ直ぐに相模から上野まで進みます。埼玉県所沢市で出土した土器から600年代後半に造られたと考えられています。

そして、時を同じくして、府中市には「武蔵国府」、国分寺市には「武蔵国分寺」が建設され、技術者や管理をする人含め多くの移住者が多摩川周辺に来ました。

東山道武蔵路は東村山市を通り、東大和市に直接関係は持たれませんでした。その影響を受けながら東